

編集後記——本特集の編集作業も最終段階に入った某日、ふと立ち寄った書店で、数限りなく並んだ書籍の中から、突如として『死者を弔うということ——世界の各地に葬送のかたちを訪ねる』が目の中に飛び込んできた。ビジネス・社会・環境の論者としてニューヨーク・タイムズ、ウォールストリート・ジャーナルなど世界的なメディアに寄稿している英国の作家・ジャーナリストのサラ・マレー (Sarah Murray) が著した *MAKING AN EXIT: From the Magnificent to the Macabre—How We Dignify the Dead* の全訳である (郷野みさと訳、草思社、二〇一四年六月)。◆死体は「有機物」でしかないと確信していたものの、いざ死を目の前にするや、風光明媚な地に立つ鄙びた教会の近くで眠る友人の傍らに葬られることを望むようになった父親の心情を考えながら、彼女はイラン、パリ、シチリア、ガーナ、香港、フィリピン、カルカッタ、チェコ、メキシコと世界各地を経廻り、時に奇妙で、時に底知れぬ恐怖を宿す葬送——記号化された哀惜——に、「この世で最も奥深くに秘められた哲学と迷信、希望と怖れ」を垣間見たという。◆人はどのような「人の死」と向き合い、「弔い」を重ねるのか。葬送とは心の奥底に秘められた思いを形式化する作業であり、文化とは《生きている形》《生きている姿》だ。であればこそ葬送は文化にとって最も重要な柱だろう——本特集の編集を終え、改めてその感を強くした。◆本特集が読者にとって葬送に籠められた「人の生」を考える縁となつたなら、編者としては望外の喜びである。最後に、多忙な中を貴重な論考を寄せていただいた執筆者に、改めて深甚なる謝意を表したい。

(樋泉克夫)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論考を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度 (400字詰原稿用紙換算) ③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail : china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21 編集委員会

〔編集長〕唐燕霞 加治宏基 川村亜樹 黄英哲 高橋五郎 樋泉克夫

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.41

特集 葬送という文化

2014年8月20日発行

ISBN 978-4-497-21415-7 C3039

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	安部 悟
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861